

# 地域・社会とともに

ワタミグループでは、社会的使命（責任）を果たすためにも、ワタミらしい社会貢献活動を推進しています。活動は、地球的、かつ地域密着型で、「グローバル&ローカル」を基本に着実に推進しています。

【地域・社会】各行動計画の実績と評価

主な取り組み		2006年度目標	2006年度結果	評価	2007年度目標	掲載ページ	
地域・社会とともに	全社員ボランティア活動	ボランティア参加人数(率)(※1)	100%	100%(1,598人)	○	100%	42
	社会貢献活動紹介	わたみ北海道自然学校の開催	年1回の開催	年1回の開催	○	年1回の開催	44
		ワタミふれあいカードでの寄付(※2)	店舗(※2)での利用総額の1%相当を社会貢献に使用	4,260千円を寄付	○	グループ外食店舗での利用総額の1%相当を社会貢献に使用	45
		ワタミふれあいカードでの寄付(和民中国)	店舗(※3)での利用総額の0.25%相当を社会貢献に使用	36千HK\$ (540千円)を寄付	○	利用総額の0.25%相当を社会貢献に使用	45
		ワタミふれあいカードでの寄付(三商和民)	店舗(※4)での利用総額の1%相当を社会貢献に使用	44千NT\$ (158千円)を寄付	○	利用総額の1%相当を社会貢献に使用	45
		NPO(SAJ)支援(※5)	活動を支援	外食店舗での募金箱設置 1,195千円	○	継続して支援を実施	45
従業員から寄付 27,354千円							
		グループ各社による法人会員寄付 720千円					

○達成、×未達成、-該当なし

※対象期間は2006年4月1日～2007年3月31日

(※1) 対象はワタミ(株)、WFS、WDFS、T.G.I.F.J. (株)ワタミファーム、(有)ワタミファーム、ワタミエコロジーの7社

(※2) 対象は日本国内のグループ外食店舗

(※3) 対象は、香港・深圳のグループ外食店舗

(※4) 対象は、台湾のグループ外食店舗

(※5) 対象は、国内企業12社

ワタミの発想の原点を、ワタミ(株)社長が社員に向けて贈ったメッセージから紹介します。(給与メッセージより)

## ■何のために人は生まれてきたのか？

食べ物がなかったり、病気をしても手当てを受けられなかったりしている子どもたち。この平和な日本でも、生まれてきたときから体が不自由、突然の事故、病気……この長い人類の歴史のなか、幸福に暮らし天寿を全うした人のなんと少ないことでしょうか。このことを、私は、この地球を、「人間性向上のための道場として神様がつくったのではないか」と考えると、すべてつじつまがあうと思っています。

長生きする、しない。病気になる、ならない。事故にあう、あわない。お金持ちか、貧乏か。等々、この地球で起きていることは、神様の尺度からするとまったく取るに足りないことなのでしょう。すべてのマイナスの現象は、人間性向上のきっかけとなると考えているのでしょう。

病気やケガをしたがために、何でもないことに感謝できるようになり、本当の謙虚さを身につけ、優しくなり、誠実になったという話はよく聞きます。

「人は悲しさを知った分だけ人に優しくなれる」と言いますが、本当かもしれないと思います。他人の喜びや悲しみを共有した時、人間性は最も高まっています。

ワタミグループでは、そこで働く人にとっては、人間性向上の場そのものであってほしいと思います。環境汚染のない青空の下、世界中の子ども達が飢えることなく、笑顔で楽しく、自分のもって生まれた能力を100%活かすことで人間性を磨いている、そんな場面を想像しています。そんな世の中をつくるため、ほんの少しでも役立つグループになりたいと本気で思っています。

# 全社員が年に1回はボランティアに参加する

## 全社員ボランティア活動

ワタミグループでは、「全社員が年に1回はボランティアに参加する」を合言葉として、社員が自主的に参加しやすいように専属の担当者が、全国でのボランティア開催予定を業務改革会議などの各事業の会議体にて案内をしています。

## ボランティア体験を研修カリキュラムに

1997年4月に、横浜ボランティア協会との協力で新入社員が地域の作業所を訪問し、ボランティア活動を行うプログラムを導入。以来、新卒社員の入社時研修として毎年4月に行われています。2006年度は443名が34の作業所などの施設で研修を行いました。

補足資料：ボランティア研修参加人数・訪問施設数…WEB掲載

## 施設バザーへの参加

ワタミグループの社会貢献活動が本格的に始まったのは、1995年5月の施設バザーへの屋台出店からです。これらのバザーには、現在も各社の本部社員を中心に継続的に参加しており、2006年度は、6回、102名の社員が参加しました。お好み焼などの模擬店を出店し、合計370千円を主催団体様に寄付させていただきました。2007年度は、9回の出店を予定しています。



### TOPICS

#### ボランティア活動を通じて 横浜訓盲院 指導員 徳江 剛様



ワタミグループの社員の方々には、私たちの学院のPTAが主催するバザーにおいて、定期的にお好み焼などの模擬店を出店していただいています。参加される社員の方々には皆さん非常に楽しんで、また普段のお仕事の内容を活かして、バザーを盛り上げていただいております。子どもたちもバザーという日常と違う雰囲気の中で、出来たてのお好み焼などを食べる機会もほとんどないので、とても喜んでます。

2006年度は1,598名の社員がボランティア活動に参加。来年度以降も継続していきます。

また今年度は、外食事業における店舗出店の日本全国展開に伴い、お食事会をはじめとする諸活動も全国に広がっています。

## お食事会

1999年の7月と9月に横浜訓盲院、横浜看護産科の方々をお迎えしてお食事会を開催。以来、ハンディキャップがあるなど社会参加の少ない方を店舗にご招待し、「お食事会を通じた交流会」を開催しています。

2006年度のお食事会は37回行われ、817名の方々をご招待し、425名の社員がボランティアとして参加しました。この活動を通して、サービスの原点であるホスピタリティを学び、一人ひとりが、人に優しい心を持てるような機会をいただきました。

補足資料：お食事会実施回数・参加社員人数・招待人数…WEB掲載



## 介護ボランティア

ワタミグループでは、2006年度より新たに外食事業の社員向けに介護ボランティアを行っています。ホームでのレクリエーションに参加したり、お食事を一緒にさせていただき体験を通じてホスピタリティを学んでいます。

2006年度は50回122名の社員が参加しました。

ワタミでは、グループで連携をとりながら事業展開している地域では、積極的にボランティア活動、社会貢献活動を展開しています。

### ■ボランティア活動マップ

- 2006年度
  - 病院ボランティア
  - ボランティア研修
  - バザー参加
  - お食事会
  - 養護学校との交流
  - 地域清掃・美化活動
- 2007年度
  - 新規活動予定
- ワタミグループ  
外食出店地域

## 養護学校との交流を

2004年より「地域社会への貢献」を目的として、外食店舗・ワタミ手づくり厨房では、養護学校との交流を行っています。

具体的には、養護学校の生徒が各店舗などでの勤務体験を通じて社会的自立をする支援をしています。

2006年度は19校22名の生徒を受け入れました。また、新たに介護施設での受け入れも始まりました。このような活動を続けながら、さらに地域との交流を深め、貢献していきたいと考えています。

## 学生の受け入れ

2004年度より、都文館夢学園の修学旅行のプログラムの一環として高校生を受け入れています。2006年度は「食の大切さ、命の大切さを理解してもらおう」ことをテーマに、畑での播種をはじめ牧場での搾乳や漁港での水揚げなどの体験（見学）をする内容を実施し、273名を受け入れました。

また、2006年度は、日本大学・生物資源科学部の学生29名を受け入れました。座学での農学や動物学などの知識をさらに深め、同時に農業への興味をより増進してもらえればと考えています。



## 病院ボランティア・バザー

ワタミ医療サービス(株)を通じ、病院の、主にターミナルケア病棟(ホスピス)の入所者の方々とのレクリエーション、散歩、お食事などのお手伝いを定期的に行わせていただいています。

ボランティアとして参加させていただくことにより、参加者が「自分の目で見て・ふれあい・感じる」ことを通じて、「生きることについて学び、人生について考える」きっかけをいただいています。

2006年度は、21回・合計65名の社員が参加しました。また、患者様・ご家族様・近隣の方々・病院の職員の方々も参加するバザーで、ワタミファームの有機野菜を販売し、その収益100千円を岸和田市保健福祉部および、なかよし新条ボランティア会に寄付させていただきました。



## 地域清掃・美化活動

外食店舗では、毎日の店舗周辺の地域清掃に加え、各地で開催される定期的な清掃イベントにも参加しています。2006年度は、東京都日比谷公園の清掃に社員60名が参加しました。

また、ワタミファームでは、山武農場で千葉県横田地区、倉淵農場で群馬県相馬地区、佐原農場で千葉県返田地区、京丹後農場で京都府島津地区で行われる清掃や草刈りのイベントに毎年参加しています。

今後も継続的に参加し、環境意識の啓発を行うとともに地域の環境向上に貢献していきます。

# 国内も海外も、顔を見ながらの地域密着型貢献活動

## ■ わたみ北海道自然学校

1999年より毎年8月に、小学校高学年生を対象とした「わたみ北海道自然学校」を開催しています。

わたみ北海道自然学校は、子どもたちの持つ「思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝の心、素直さ」など、「人間が本来持っている美しい資質」を高める「きっかけ」を提供できれば、との思いからはじめたイベントで、2007年度は、9回目を開催し、子どもたち36名に、社員10名が先生としてボランティアで参加しました。



## ■ 授産品の代行販売「和み亭」のおもちゃ

ワタミグループでは、ハンディキャップのある方々の社会参加の後押しを目的に、1999年6月より「和み亭」店舗にショーケースを設置し、「授産品の販路を広げるお手伝い」をしています（2007年3月末現在22店舗で設置）。

2004年4月からは、NPO法人「日本セルフセンター」との協働を開始し、全国571団体で働く方々の支援をするきっかけをつくりました。

また2005年度より、定時株主総会でも授産品を販売するスペースを用意させていただいています。

2006年度は640千円を代行販売させていただきました。



特定非営利活動法人 日本セルフセンター  
http://www.selp.or.jp/selpcenter/

補足資料：おもちゃの代行販売店舗数と売上…WEB掲載

## ■ 1%クラブ

1997年8月より、(社)日本経済団体連合会の1%クラブ（経常利益の1%相当額を、自主的に社会貢献活動に支出しようと努める企業や個人の連合会）に加入し、目標数値をもってプログラムを推進しています。

1%クラブ <http://www.keidanren.or.jp/japanese/profile/1p-club/>

## ■ 「ブラックイルミネーション2007」へ参加

2005年の京都議定書の発効を受け、環境省では、温暖化防止のために、ライトアップ施設や家庭の電気を消していただくよう呼びかける「CO2削減/ライトダウンキャンペーン」を、2007年6月22日(金)～24日(日)まで実施しました。

特に24日(日)の夜を「ブラックイルミネーション2007」とし、夜8時～10時の2時間、全国のライトアップ施設に対し電気を一斉に消灯していただくことを広く呼びかけています。

ワタミグループでも、「美しい地球を美しいままに、未来の子どもたちに残してあげたい」をテーマに参加、独自のキャンペーンを開催、環境について考えるきっかけを提供する活動を実施しました。

国内では、キャンペーンを告知する絵ハガキの配布や、20時～22時まで外食店舗609店・老人ホーム28棟・ワタミグループ本社看板を消灯しました（一部、時間・消灯場所が異なります）。

海外外食店舗においても、台湾でキャンペーンを告知する絵ハガキを配布、香港・深圳では環境保護を啓発する絵ハガキを配布しました。

さらに国内外外食店舗では、寄付を前提としたカクテルの販売を実施し、販売利益1,351千円をNPO法人「Return to Forest Life」(→詳しくはP57へ)へ寄付させていただきました。

介護施設では、ご入居者様へオリジナルドリンクを提供しました。



消灯前の外食店舗、および介護の看板(右)  
消灯された外食店舗、および介護の看板(左)  
(東京 上野駅前)



キャンペーンポスター、限定カクテルメニュー、告知ハガキ

「環のくらし」ブラックイルミネーション2007  
<http://www.wanokurashi.ne.jp/intro/index.html>

ワタミグループでは、海外で事業展開をしている地域でも幅広く社会貢献活動を展開。現地のニーズに合わせた対話型の貢献活動を続けています。

## ■ ワタミふれあいカード

1996年より「未来の子どもたちのために」をテーマに始めたワタミふれあいカードは、グループ店舗での利用時にも特典を受けられるクレジットカードで、国内ワタミグループでの利用総額の1%相当を社会貢献に使用しています。

2006年度は、NPO法人「スクール・エイド・ジャパン」に、4,260千円を寄付させていただきました。



日本国内のカード

和民中国でも、ワタミふれあいカードの利用総額のうち0.25%を「児童癌慈善団体」など社会貢献活動を行う団体へ毎年寄付させていただいています。2006年度は36千HK\$（540千円）を寄付させていただきました。

※児童癌慈善団体 (Children's Cancer Fond charity purpose) は、癌と闘う子どもたちを支援している団体です。  
児童癌慈善団体ホームページ <http://www.ccf.org.hk>

三商和民では、ワタミふれあいカードの利用総額の1%相当を社会貢献に使用しています。2006年度は44千NT\$（158千円）を、台湾児童家庭援助基金へ寄付させていただきました。

※台湾児童家庭援助基金 (Taiwan Fund for Children and families) は恵まれない子どもたち、およびその家族の支援を行うための、台湾で最初のNPO法人です。  
台湾児童家庭援助基金ホームページ [http://www.ccf.org.tw/index\\_1.php](http://www.ccf.org.tw/index_1.php)  
※1HK\$=15円換算 ※1NT\$=3.6円換算



「和民Hong Kong」のカード



「和民Taiwan」のカード

## ■ 開発途上国の経済発展への寄与を目的に

ワタミグループでは2006年1月より開発途上国の方々に人材育成のノウハウを提供し、その国の経済発展に寄与することを目的に海外からの外国人研修生の受け入れを行っています。「ワタミ手づくり厨房」にて研修を実施、日本の食品加工工場の運営のノウハウを提供しています。

2006年度はベトナムから15名の受け入れを行いました。2007年度も海外からの受け入れを継続して実施する予定です。



## ■ NPO法人「スクール・エイド・ジャパン」の支援

ワタミグループは、2001年に設立されたNPO法人「スクール・エイド・ジャパン (SAJ)」の活動を設立当初からグループ各社と社員全員で継続的に支援を行っています。

SAJは、「一人でも多くの子どもたちに、人間性の向上のための教育環境と教育機会を提供する」ことを目的としており、「子どもにかかわる教育支援」に積極的に取り組んでいます。

その具体的な活動として小学校を中心に、教育環境の提供（学校建設支援、教材・教具・図書の提供）、教育機会の提供「ふれあいサポートプラン」などの支援活動を行っています。

SAJは、ワタミの社員の発案から設立された団体で、スタート時点ではワタミからの支援が中心でしたが、今ではたくさんの方々からの支援により運営されている団体です。

ワタミは今後もこの団体を支援していこうと考えています。

※NPOとは、Non Profit Organizationの頭文字で、民間非営利組織のことです。

### ■ 支援内容

外食店舗での募金箱設置 (ポスターの掲示) ※2006年度寄付金額 1,195千円
従業員が給与天引きで寄付できる体制の構築 ※2006年度寄付金額 27,354千円
株主総会 (経営説明会) でのブース出店スペースの提供
全体会議および研修会で、取り組み内容を説明する機会の提供
SAJの活動報告をする月刊誌「smile通信」を配布する機会の提供
グループ各社による法人会員寄付 ※2006年度寄付金額 720千円



SAJ支援によって建設されたカンボジアの中学校と子どもたち



外食店舗のレジ付近に募金箱を設置



特定非営利活動法人(NPO法人)「スクール・エイド・ジャパン(SAJ)」の支援

## 皆様の寄付は、「1円残らず現地に」お届けしています。

発展途上国の子どもたちに教育環境と教育機会を提供しています。



### SAJの特徴は「全額現地の支援費に」

SAJでは、皆様からの会費・寄付・募金は、「1円残らず現地の支援費にする」ことを基本方針として活動しています。

事務局の経費は、「経費指定寄付(使途限定の寄付)」で賄われ、皆様からの会費・寄付・募金は、事務局の活動費には使われていません。

### 教育支援の3つの方針

#### ● 学校教育を充実させる支援

発展途上国においては、学校教育は子どもの基礎学力の向上を組織的、効率的に行うために特に重要な役割を果たします。

より多くの子どもたちが教育を受けられるよう、小学校教育を中心とした支援活動を行います。

#### ● 地域に根ざした支援

支援対象地域の状況に合わせた教育支援活動を行います。

#### ● 点から面への広がりのある支援

一地域からその周辺のより広い地域へと、活動の浸透が図られることを目指します。

### 活動実績

2001年からカンボジアを中心に教育支援をしています。

2001年11月より、SAJ初のプロジェクト、カンボジア・トモケオ小学校での「学校建設」が始まり、2002年2月には、支援の第1号校舎が完成しました。

2006年度は22校(カンボジア21校、ネパール1校※1校建設中)を建設し、2007年度も20校(カンボジア18校、ネパール2校)の建設を予定しています。

#### ● ネパールへの支援を開始

SAJは2004年9月に、ネパール社会福祉協議会より外国NGOの認定を受け教育支援活動を行っています。2006年11月にはネパールのカブレランチョック郡に第1号支援校舎として「マハンカン小学校」が完成し贈呈式を行いました。2007年度は2校の建設を予定しています。



マハンカン小学校の贈呈式の様子

#### TOPICS

##### カンボジア政府からの勲章授与

2007年3月のカンボジア・コンボンスプー州の「レ クライムスキー小学校」にて行われた贈呈式で、カンボジア政府からカンボジア建国に功績を残した外国の元首や大使などの公人に贈られる、カンボジア最高の勲章「サハメトレイ・モニ・サラフォン勲章」がSAJへ授与されました。

カンボジア政府ならびに国王から活動の実績を認められたことであり、大変名誉なことだと考えています。



### ふれあいサポートプラン

SAJでは、教育環境や教育機会に恵まれない子どもたちに、自分の向学意欲を満たし、可能性を伸ばす機会の提供として、学校建設のほか、学費支援制度「ふれあいサポートプラン」を行っています。

小学校に入学する子ども1,000人のうち、卒業できるのはたった69人。(2003年のふれあいサポートプラン導入時)多くの子どもたちは、貧困などの家庭の事情のために学校に通えなくなってしまいます。「ふれあいサポートプラン」は、貧しくて、学校に通えない子どもに、制服、ボールペン、ノートを支援しています。

2003年度の試験導入の結果、出席率がよくなり、成績も向上するなどの効果が見え、州教育局もこの制度に着目しています。

2006年度は711名の支援をしました。

### 給食支援・お米支援をWFPと協同で開始

2006年5月より、「給食支援」「お米の支援」を、WFP(国際連合世界食糧計画)と協同で開始しました。

「給食支援」は、コンポンチュナン州で建設支援した15校6,500人の子どもたちに1日1回の朝給食をしています。「お米の支援」では、ふれあいサポートプランを受けている711人の子どもたちに毎月15kgのお米を提供する支援です。(毎年、WFPの審査を受けて更新となります。支援の最大期間は4年間です。)

生活のため学校よりも仕事を優先せざるを得なかった子どもたちが、これらの支援が開始されたことによって、出席率が向上しました。

※国際連合世界食糧計画(WFP) <http://www.wfp.or.jp/>

#### TOPICS

##### 医療検診(治療)を実施

2006年5月、SAJが設立した「スワイ・サムサップ小学校(生徒380人)」「スラッカエル小学校(生徒300人)」にて日本青年会議所・医療部会が(OB含む)21名の方の自費参加で、学校の教室を臨時の診療室として検診・治療(内科・眼科・歯科)を実施しました。



教室内での診察の様子

### 夢追う子どもたちの家を開園予定

SAJでは2008年3月にカンボジア・ポーサット州に「夢追う子どもたちの家(孤児院)」の開園を予定しています。

「子どもたちの幸せのためだけに運営する」を方針とし、子供たちが勉強する学習室や、働く場所として畑・果樹園などがあり、しっかりと生活習慣とあるべき人格を身につけ、自立するまでのサポートを行っていく予定です。



イメージ